

一人一人の意欲や可能性に応える多様な学びを通して、個性を生かし社会で輝ける人を育てる学校

育成を目指す資質・能力に関する方針
（グラデュエーション・ポリシー）

- 自分の能力に付き、主体的・自律的な学びに真摯に取り組む生徒を育てます。
- 多様な価値観を尊重して他者と協働し、共に成長する生徒を育てます。
- 夢や希望を抱いて未来を描き、その実現にチャレンジする生徒を育てます。

教育課程の編成及び実施に関する方針
（カリキュラム・ポリシー）

- 「学び直し」の観点から基礎基本の定着に主眼を置き、個別最適な学びを提供します。
- 一人一人の個性や特性に応じた教育活動を実践します。
- 教科横断的な学習によって学力を伸ばし、希望に沿った進路を実現します。
- 多彩な特別活動の展開によって人間性を育み、社会人としての資質の向上を推進します。

努力点	学校自己評価				学校関係者評価
	本年度の具体的方策	評価指標	評価結果	次年度以降への改善策	
安全・安心な学校	いじめを許さない学校づくり、問題行動の未然防止 (生徒部)	本校の教育活動に関するアンケート(生徒対象)のいじめ防止に関する項目の評価で「おおむね満足」以上が90%以上A、90%未満70%以上B、70%未満C	B 88.8%	B	○限られた登校日の中で生徒の困り感を見聞き逃さないよう、行動観察や「生活と学習の記録」の記述確認に努める。 ○健康管理についての意識を啓発する記事をコレスポンド通信に載せて定期的に発信する。「生活と学習の記録」で生徒の生活リズムや健康状態を把握し、改善を働きかけていく。 ○SCとのさらなる連携の機会を確保する。
	生徒自身による健康管理能力の伸長 (生徒部)	HR活動や定期的に発行するお知らせ(コレスポンド通信)を通して生活習慣や健康についての意識の向上を図り、年度末にアンケートを実施した結果、健康を意識して生活を送ることができた生徒の割合が80%以上A、80%未満65%以上B、65%未満C	B 72.0%		
	生徒の困り感に寄り添い、学びに向かう姿勢を育む指導・支援の実践 (生徒部)	①日曜生が利用できるSCの配置 ②SCと教員との十分な連携 ③SCを講師とする研修会の実施 3つ達成でA、2つ達成でB、1つ達成でC	B ①と③達成		
キャリア教育の充実	学習に関する自己管理能力の育成、ICTを活用した学習機会の拡充 (学習部)	①「学習状況確認表」を活用して自己管理できた生徒が5割以上 ②ICTを利用して開発した学習教材を教員間で共有し、活用する ③共有した学習教材について検証を重ね改善を図る 3つ達成でA、2つ達成でB、1つ達成でC	B ①と②達成	B	○出席や学習に関する自己管理は、目的意識をもって自ら律する必要がある。このことがあまり得意でない生徒には、教員と一緒に取り組み、主体的に関わったという自信を持たせると良い。 ○生徒の自学自習の支えとなるICTによる学習コンテンツの活用方法の紹介にも、積極的に努めてほしい。 ○関係機関との連携によって進路選択を支援することは大切なことである。引き続き進路意識の啓発に心を尽くして取り組んでほしい。
	「総合的な探究の時間」の充実、関係機関と連携した進路の実現 (進路部)	①「総合的な探究の時間」の工夫・改善点を洗い出し、充実を図る。 ②ハローワークや市町と協働し、生徒一人一人に適した進路選択を支援する。 2つの達成でA、1つの達成でB、達成できない場合はC	B ②達成		
	体験的活動を中心とした特別活動の実施 (教務部)	体験的活動を中心としたHR活動や学校行事を実施した回数(年間)が5回以上A 2回以上B 2回未満C	A 6回		
開かれた学校づくり	生徒・保護者への情報提供の充実、本校の強み・魅力の発信 (教務部)	①メール配信システムへの登録が90%以上 ②メール配信システム月1回以上の積極活用 ③保護者対象アンケートで「情報提供におおむね満足」以上が70%以上 3つ達成でA、2つ達成でB、1つ達成でC	B ②③達成	B	○情報の質に対応したデジタル化を推進することは重要だ。中でも、一斉メールは、可能な限り生徒・保護者全員の登録を促したい。その結果、情報伝達の利便性は向上するだろう。一方、メール送信によるマイナス面にも留意する必要があるかもしれない。 ○「地域との連携・協働を通したボランティアや貢献活動による社会性の育成」では、参加者へのアンケートを実施してその結果を取りまとめ、分析・改善まで取り組んでほしい。
	地域との連携・協働を通した生徒の社会性の育成 (教務部)	①ボランティアや貢献活動の受け入れ先について情報収集 ②受け入れ先の確保 ③活動計画の立案と実施 3つ達成でA、2つ達成でB、1つ達成でC	C ①のみ達成		